イオル体験交流事業「子どもたちに伝えたいアイヌ文化」講座
町内の教職員が暮らしや歴史を熱心に学ぶ

講座は子どもたちが夏休みの８月２、３日、白老コミセンを会場に開かれました。町内の小中学校では、ふるさと学習の一環でアイヌ民族の歴史と文化を学ぶ授業が活発に展開されています。講座は教職員が児童生徒の指導に生かせるように―と開催しました。町、町教育委員会が主催、白老モシリ主管。

小中学校の教職員約50人が参加しました。アイヌ文化学習の指導法の考察など座学と、古式舞踊やアイヌ民族の子どもの遊び体験など芸能や暮らしぶり、切り絵体験を通したアイヌ文様の学習などに熱心に取り組みました。

座学を終えた白老小の菅原岳教諭は「講師の学芸員の方が言っていた、体験学習を『ただ楽しいだけでは終わらせない』『体験の大切さを感じてもらう』という課題は、体験の前にアイヌの人たちの生活や考え方などを事前に伝えておけば、きっと伝わるのでは」と早速考えを深めていました。

古式舞踊や弓矢を体験した虎杖小の馬場真実教諭は「楽しんでできる伝統芸能に触れさせてあげたい」と話し、アイヌ文様の切り絵を体験した萩野小の笹原馨子教諭は「文様の意味などを伝えながら、版画なども取り入れたらどうか」とヒントを得ていました。

講師を務めたイオル事務所チキサニの森洋輔学芸員は「『カムイとは何か』をしっかり子どもたちに伝えるためには、アイヌ文化学習体験は大切です」と話していました。

知っておこう アイヌ文化

ウトカンベツ

イランカラプテ。仙台藩白老元陣屋資料館の横を流れるウトカンベツ川は、アイヌ民族に伝わる物語によれば、その昔、この川を挟んで両岸から矢を射合う戦いがあったので、ウ（互いに）・トゥカン（矢を射る）・ペッ（川）という地名になったといいます。その戦いの背景には、村同士の闘争があったとされ、闘争に敗れた村長とその少数の部下が日高地方から逃げて、落ち着いた場所が白老であり、数日後、同じく敗軍として白老に逃げ延びた一団と、その一団を敵の追撃軍と思い込んだ先着の村長とその部下たちが、ウトカンベツ川で矢を射合ったところ、矢の印で味方とわかり、射合うのを止め、その後、追撃軍が来ないことから白老に定着したといいます。しかし、この物語が本当であるなら、白老アイヌの祖先が白老へと移住する原因になった村同士の闘争とは一体？釧路出身のアイヌ民族である山本多助氏（1904-1993）の原稿「トパットミ」によれば、昭和16（1941）年６月、山本氏が白老のイソンクル（名猟師）、宮本イカシマトク氏（1876-1958）を訪ね、聞き取った内容として、釧路アイヌのトパットゥミ（夜襲）に攻め立てられたことが原因で、ウトカンベツ川の川辺まで落ち延び、白老に定着したといいます。では一体、夜襲と訳されるトパットゥミとは何なのか？次号で引き続きご紹介したいと思います。

政策推進課　アイヌ政策推進室　学芸員　森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所　チキサニ　☎８２－６３０１

アイヌ古式舞踊講座

アイヌ古式舞踊を初心者にも分かりやすく指導します。気軽に参加してください。受講無料。

日　時　９月６日㈪～11月８日㈪の全８回
　　18時～19時30分 毎週月曜日
会　場　白老中央生活館（大町３－７－14）
主　催　白老アイヌ協会
詳　細　政策推進課　アイヌ政策推進室
　　☎８２－７７３９

白老ペッカムイノミ

秋のサケ遡上時季を迎え、神々に豊漁を祈る「ペッカムイノミ（新しいサケを迎える儀式）」を開催します。

日　時　９月13日㈪　10時～12時
会　場　ウヨロ川河口（白老川との合流地点）
主　催　白老アイヌ協会
詳　細　政策推進課　アイヌ政策推進室
　　☎８２－７７３９

アイヌ碑先祖供養祭で祈りささげる

白老アイヌ協会主催の第17回白老アイヌ碑先祖供養祭が８月８日㈰、白老アイヌ民族記念広場で行われ、来賓、町民らを合わせて約50人が、シンヌラッパなど伝統儀式を厳かに執り行い先祖を供養しました。山丸和幸理事長は「アイヌ民族の歴史や文化を多くの人に理解してもらうよう努めていきたい」とあいさつしました。戸田安彦町長は「町アイヌ施策基本方針改訂版の策定を進めています。将来に向けてアイヌ文化をどのように伝承していくのか町としても大きな課題です」と話していました。